

四国中央ユネスコ協会・しこちゅ〜ホール指定管理者 共同開催

# 「1本の映画から世界を知る」 映画祭



©2025『35年目のラブレター』製作委員会

## 35年目のラブレター

心温まる感動の実話  
読み書きできない夫と幸せを覚えてくれた妻が歩んだ人生

2026年

# 8月1日(土)

しこちゅ〜ホール 小ホール  
(四国中央市市民文化ホール) ~かるた~

開場 17:00~

《参加自由》

上映会 18:00~/意見交換会 20:10~  
(30分程度)

後援 四国中央市 四国中央市教育委員会 (株)四国中央テレビ

チケット  
絶賛発売中

### 料金

- 一般前売 700円(当日1,000円)
  - ユネスコ会員 500円
  - しこちゅ〜ホール友の会会員 500円
  - 高校生以下 無料(※入場チケットは必要です)
- ※全席自由(定員200名)

チケット販売所 四国中央テレビ1階 窓口  
(高校生以下の無料チケット配布中)



四国中央ユネスコ協会

四国中央ユネスコ協会事務局  
〒799-0404 愛媛県四国中央市三島宮川4-6-48  
(四国中央テレビ内)  
TEL:0896-24-0130



【ユネスコ協会 HP】



【ユネスコ協会 X】



【ユネスコ協会 Facebook】



【ユネスコ協会 Instagram】

過酷な幼少時代を過ごしてきたゆえに、読み書きができないまま大人になってしまった主人公・西畑保。保を支え続けたしっかり者の妻・餃子 きょうこ。

仲良く寄り添うように生きてきた2人。定年退職を機に、保はあることを決意する。最愛の妻にこれまでの感謝を込めた“ラブレター”を書く——。60歳を超えた保の長い奮闘の日々が始まった。



## story

西畑保、65歳。文字の読み書きができない。そんな彼の側にはいつも最愛の妻・餃子がいた。保は貧しい家に生まれ、ほとんど学校へ通えず大人になった。生きづらい日々を過ごしてきたが、餃子と運命的に出会い、めでたく結婚。しかし、その手放したくない幸せ故に保は読み書きができないことを言い出せずにいた。半年後、ついにひた隠しにしてきた秘密が露見し別れを覚悟する保だったが、餃子は保の手をとりながらこう告げた。

### 「今日から私があなただの手になる」

その言葉に、その眼差しに、保は救われた。

どんな時も寄り添い支えてくれた餃子へ感謝のラブレターを書きたい。定年退職を機に保は一大決心し夜間中学に通い始める。

担任の谷山恵先生のじっくりと粘り強い教えや年齢・国籍も異なる同級生たちと共に学ぶ日々で少しずつ文字を覚えていく保。だが老齢のため物覚えも悪く、気付けば5年以上の月日が経過した頃、一字また一字と書いては消しまだ書くひたむきな保と、それを見てもなく見守る餃子は結婚35年目を迎えていた。変わらない日常がいつまでも続くと思っていた。なかなか書き上げられずにいたラブレターがようやく形になろうとしていた頃、餃子が病魔におそわれて……。



## 四国中央ユネスコ協会からのメッセージ

皆さんは「識字」という言葉を知っていますか？「識字」とは、文字を読み書きし、理解することです。世界中には貧困、女性差別などの理由で学校に通えず、文字が読めないために不利益を被っている人がいます。四国中央ユネスコ協会では、2017年、ネパールに1件の寺子屋(民間の学習支援施設)を寄付しました。そこでは幼稚園クラス、小学校クラス、社会人教室が行われ、現地の人々の生活向上に役立ててもらっています。

日本では小・中学校が義務教育なので「識字率(15歳以上の人口のうち日常生活の文章を読み書きできる人の割合)100%」と思う人もいるかもしれませんが、疑問視する専門家もいます。

この映画は実話に基づいています。戦前生まれの主人公は戦後の混乱や学校でのいじめなどで学習機会を失い、文字が読めないことを隠して生きてきました。あるきっかけで学びなおしを決意し、夜間中学へ通います。高齢の方は主人公のような事情が多く、若い世代では不登校や外国からの移住による識字問題を抱える人が増えていて、文部科学省は学びなおしのための「夜間中学」の設置を進めています。すでに設置、または計画中を含めると47都道府県中42に及び、因みに愛媛県には予定すらないようです。

読み書きはコミュニケーションの基本です。国連が採択したSDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」の実現のため、現実をまず知っていただきたいと思い、皆さんご存じの俳優さんの出演作を選びました。堅苦しく考えず純粋にストーリーをお楽しみください。その中から、何かを感じて頂けたら幸いです。